



～ 夢ひとすじに ～  
宮原中だより

自ら学び 心豊かに たくましく

平成 2 6 年 度 第 1 1 号  
平成 2 7 年 2 月 2 日 ( 火 ) 発行  
さいたま市立宮原中学校  
メールアドレス  
miyahara-j@saitama-city.ed.jp  
ホームページアドレス  
<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp/>

## 「親切のやまびこ」

校長 やました 山下 せいじ 誠二

今年度の宮原中学校は、部活動や地域行事、小・中一貫教育でも素晴らしい成果が上がったのではないかと感じます。これは、当然のことながら生徒の頑張りはもちろんのこと、指導する側の教員との一体感、そして保護者や地域の皆様の温かいご支援やご協力の賜物と感謝いたします。しかし、全てのことがうまく回っているわけではありません。「勉強がわからない」「小学校からの人間関係が修復できていない」「ラインに悪口を書かれたので学校に行きたくない」等、悩みを抱えている生徒も正直少なくありません。例えば、部活動を続けて休むと、休んだ生徒に対してある生徒が「何で休んだんだ」と突っついてしまう。それを何度も続けて言われるのが嫌だからまた休む・・・顧問がどんなに親身に話を聞いてあげても、部活動をやめてしまう。教育で大切なことは、学力は当然のことですが、善いことと悪いことの区別をはっきりつけさせてあげることだと思います。善悪の区別は、簡単そうで難しい。人を助ける行為は「善」で、人に迷惑を与える行為は「悪」であることについてはみなさん異論がないことでしょう。善悪をはっきりさせるために大切なのは、教育する大人が、善悪をわきまえていることが必要不可欠です。人に注意する基準と、自分に課する基準に差があれば、子どもは育ちません。子どもは、大人の背中を見えています。社員が社長を見るように言葉と行動を絶えず吟味しています。学校には、さまざまな問題や意見が寄せられます。その意見を聞く教員の仕事は大変です。しかし「ピンチをチャンスに変えられる」そんな仕事を私自身は大好きです。

さて、「自分が預けた時間だけ、用事を代わってしてもらおう。」そんなユニークな「時間の銀行」がイタリアでは話題になっているそうです。イタリアでは、女性が働くのは当たり前という風潮があり、早くから女性の社会進出に関する法整備が進んでいたこと、そして旦那様のお給料だけでは家計が成り立たないという現状も関係しています。一方で、「家事は女がするもの」という考えも未だ根強く残っており、かつイタリア女性は「我が家が大好き」ということから、働く女性は時間がたりないと・・・この「時間の銀行」は、もともと奉仕を交換し、人が助け合うことを目的とするボランティア活動から生まれた組織です。預けるのはお金ではありません。空いている時間、他の人のために家事の代行や動物や植物の世話などをして、その仕事を登録し、貯めた時間だけ、自分が他の人から用事を肩代わりしてもらおうという仕組みなんだそうです。インタ-ネットも活用して「よいことをすれば、必ずよいことが返ってくる」ということを、登録者間のきまりにして担保するこのシステムからイタリアでも「Il tempo e' denaro」(時は金なり)という言葉が存在しているそうです。人間は、自分がしてもらって嬉しいと感じたことは、必ず他の誰かにもしたくなるはず。人にやさしく親切にすると、親切にされた人は、嬉しかった親切を、今度は自分に返してくれるようになります。これは、山に向かって叫ぶと返る「やまびこ」と似ています。人の失敗や悪いところを突っつくのではなく、同じ人間として相談に乗ってあげることにより「親切のやまびこ」が飛び交うようになります。そのやまびこが増えることにより、より良い宮原中にする事が出来ると強く思います。

